

うきたむ

第59号

2022.7.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585

FAX 0238 - 52 - 4665

URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲「TAKAHATA ILLUMINATION」イベント

TAKAHATA ILLUMINATION 開催について

高島町商工観光課

佐藤 康介

令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響により、町内に限らずイベントや伝統的なお祭りが中止を余儀なくされました。窮地に追い込まれた観光関連の動きとして、アフターコロナに向け「地域課題」や「地域資源」の見直しが求められました。

当町観光の課題である「PR不足」と「長期滞在して頂く仕組みがないこと」を解決できる地域資源の1つとして、町のシンボルである「三重塔」を中心とした、歴史公園一帯と捉え、事業開催に向け0から企画しました。

当初は、考古資料館での体験や見学、菜の花やひまわり等季節ごとの花を愛でる方は多いものの、日中の利用が大きく、滞在時間も長くない状況でした。その中で、かねてから行っていた三重塔ライトアップの反響が非常によく、公園一帯に範囲を拡大させることで、日中から夜にかけて町の周遊が図られるのではないかと期待を込め、企画に取り組みました。

安全面や入れ込み数等不確定要素が多くあり、たくさんの方にご助言を頂き、ご協力頂きながらやつのことで開催に至りました。

令和4年春の開催で5回目を迎えますが、現在では、高島の代表的なイベントとして2日間の開催で数千人の方に足を運んで頂いており、SNS等でも取り上げて頂き、開催後の副次的なPRの仕組みも徐々にできてきているところです。

また、県立うきたむ風土記の丘考古資料館や郷土資料館のナイトミュージアムや道の駅売店の時間延長等々公園を中心にした事業の広がりも大きくなってきており、回数を重ねるごとに進化してきています。

一度イベントに来たことがある方も、まだ来たことがない方も楽しめるイベントになっておりますので、何度でも足を運んでいただければ幸いです。

特におすすめの楽しみ方は、季節ごとに変わる公園の景色を楽しんで頂き、日中とは雰囲気が一変する当イベントに来て頂くことです!!

特別テーマ展

「高瀬山の考古学―旧石器時代・縄文時代」

令和4年6月11日(土)～9月4日(日)

二五万平米を越える膨大な面積の発掘調査が行われた高瀬山遺跡では旧石器時代から中世までの遺構や遺物が検出されています。今回は、旧石器から縄文時代の成果を展示しています。

序章では高瀬山遺跡の調査区の平面図と調査経過を表のパネルで説明しています。

第一章 「旧石器時代の高瀬山」では1期調査区とH03期調査区から出土した五九点の資料を展示しています。1期調査区では層位の異なる3時期の石器を層位毎に展示しています。H03期調査区から出土したものは、杉久保型ナイフ形石器と神山型彫刻刀形石

器、多数の石刃が接合する石器群などを展示しています。

第二章 「縄文時代早・前期の高瀬山」では五五点の資料を展示して1期調査区の貝殻文や条痕文を持つ早期の土器片、前期中葉・後葉の土器片に続き、1期調査区の前期後葉の太木5b式、太木6式1期・2期・3期の球胴形深鉢や長胴形深鉢などの完形土器を展示しています。

第三章 「縄文時代中期の高瀬山」では二五点の土器を展示しています。H03期調査区の中期初頭五領ヶ台1・2式に併行する土器、H01期調査区の中葉太木8a

式、1期調査区の太木8b式、9式土器、SA調査区、H01期・3期調査区の中期末葉の10式土器などです。

第四章 「高瀬山の土偶・岩板」では1期調査区から出土した県内最古の土偶六點、とH01期調査区の後・晩期と考えられる土偶と岩板、合計二七点を展示しています。

第五章 「高瀬山1期の石器」では一三四一号の住居跡から出土した一括性の高い縄文時代前期後葉の打製石器と礫石器と磨製石斧など一四四点を展示しています。

皆様のご来館をお待ちいたしております。

うきたむ考古資料館 イベント紹介

当館では、年間を通して「様々なイベントを通じてまいります。程となります。これで自然の色の繊維

今回のイベント紹介が出来るようになります。

は、大人の自由研究「ラムシから繊維をとる」と、そしてその繊維を使った「コースターを作ろう」を紹介いたします。まずは7月にラムシから繊維をとるイベントから始まります。

材料は当館学芸員伊藤の実家(長井市伊佐沢地区)で栽培しているカラムシを使用します。まずは表皮を剥がしやすくする為に水につけます。

次に皮を剥ぎ、最後に道具を使って表面をこすり落として繊維をとる「苧引」しよう。



最後に道具を使って表面をこすり落として繊維をとる「苧引」しよう。

自分で作ったコースターにお茶、コーヒー、ビール等の好きな飲み物に乗せて、ゆったりとしたお家時間を楽しみましょう。



第30回企画展

「最上地域の縄文時代」

令和4年9月10日(土)～12月4日(日)

西ノ前遺跡出土の土偶(縄文の女神)の国宝指定十周年に協賛し、最上地域の縄文時代の調査成果を展示します。

同じ時期に県立博物館で土偶を中心とした展示が行われますが、当館では、土器や石器を中心とした展示となります。

最上地域ではこれまでの発掘調査で縄文時代草創期の土器や石器は出土していません。また、早期や前期の遺物も少ないのですが、中期に入ると多くの遺跡の発掘調査が行われ、出土品も多く、後期・晩期の遺跡の調査でも多くの遺物が出土しています。

今回の展示では早期から晩期の下記の子遺跡の資

料を展示する予定です。

早期の出土品は多くはありませんが、新庄市仁間磯ノ沢遺跡、福田山A遺跡、真室川町滝ノ沢山遺跡の土器片や新庄市外久保遺跡の石器などを展示する予定です。

前期の出土品も多くはありませんが、新庄市福田山A遺跡、仁間磯ノ沢B遺跡、最上町水上遺跡、金山町太郎水野1遺跡、真室川町滝ノ沢山遺跡、大蔵村上竹野遺跡の

出土品から展示することとしています。

中期に入ると調査遺跡の数も多く、重要文化財の最上町の水木田遺跡の出土品を始め、同じく最上町のかっぱ遺跡、水上遺跡、縄文の女神が出土した舟形町西ノ前遺跡、

新庄市中川原C遺跡、立泉川遺跡、鮭川村小反遺跡、真室川町釜淵C遺跡、中台4、5遺跡、金山町太郎水野2遺跡、下中田遺跡、大蔵村上竹野遺跡出土の土器や石器が展示候補となります。

後期では最上町水上遺跡、かっぱ遺跡、新庄市立泉川遺跡、戸沢村津谷



▲展示予定
水木田遺跡土器

遺跡、大蔵村上竹野遺跡から出土した資料を展示する予定です。

から出土したヒスイに似た緑色石英の玉類やその関連資料の研究結果、最上地域から出土した特殊な石斧も展示します。現在準備を進めておりますので、皆様ご期待下さい。

催し物の案内

今後の催し物です。興味のあるものがございましたら、お問い合わせください。

- ◇館長講座 7月3・10日(日)
- ◇大人の自由研究① 7月16日(土)
- ◇勾玉・弓矢・石器をつくろう! 7月9日(土)・11月3日(祝)
- ◇第30回企画展 9月10日(土)～12月4日(日)
- ◇第24期考古学セミナー 9月25日・10月2日・9日(日)
- ◇秋の遺跡めぐり 10月16日(日)
- ◇企画展記念講演会 11月13日(日)
- ◇ガラス玉をつくろう! 11月26日(土)
- ◇コースター・プレスレットをつくろう 12月3日(土)
- ◇大人の自由研究② 12月4日(日)・12月11日(日)

※すべて、完全予約制となっております。

熊野大社

南陽市宮内 ● 伝 奈良時代

今回の置賜の史跡めぐりは、日本三熊野の一つ、南陽市宮内にある熊野大社についてご紹介いたします。

南陽市の熊野大社の創建の年代ははっきりとは分かっておりませんが、社伝によると、大同元年（八〇六）平城天皇の勅命により紀伊国の熊野権現の勧請を受けて再建されたというのが、最古の記録として残っているそうです。そこから推定し、奈良時代の国分寺が建立される頃には既に社殿があったようです。その後は、天台宗・真言宗・羽黒修験道・神道の四派を習合する形となり、東北における熊野信仰の一大霊場として栄えま



▲社殿



▲うさぎの隠し彫り

した。

また、現存する拝殿は県内で最古の茅葺屋根の建築であり、天明七年（一七八七）に再建された記録が残っており、創建年代はそれよりも遡るものと考えられております。

ご祭神は、伊弉諾命・伊弉冉命です。日本で最初に結ばれた神様をお祭りしていることから、縁結びの神社としても有名です。

また、本殿裏にある彫刻には三羽のうさぎの隠し彫りがあり、三羽全てを見つけると

願い事が叶う、幸せになれると言われている。

今の時期には、風の音風鈴という風鈴を奉納する行事が行われており、願い事を託した風鈴が境内に飾られます。また、かなでというこの時期だけの特別な行事も行われており、参加した人には風鈴と限定のお守りがいただけるそうです。境内にたくさん風鈴が並ぶ様子はとて



▲境内に並ぶ風鈴

我が館の展示品 (47)

月ノ木B遺跡の石器

縄文時代早期 ● 南陽市 月ノ木B遺跡

南陽市にある月ノ木B遺跡は、白竜湖の北、大谷地に面する山の斜面に位置する遺跡です。国道13号米沢・南陽道路建設工事に伴い、昭和六十二年に発掘調査が行われ、縄文時代早期から弥生時代にかけての石器と土器が見つかりました。



▲様々な形の石鏃

大谷地に接する月ノ木B遺跡は、湖畔に季節的に飛来する渡り鳥の狩場であったと考えられ、石器に占める「石鏃」の割合が極めて高いという特徴を持っています。矢の先端につけて矢じりとして使用された「石鏃」は、二等辺三角形のシンプルな形のもの、底辺に抉りのあるもの、有茎のものなどがあり、大きさも様々です。その他にも、木や骨を加工したり、皮をなめしたりする「石篋」、ものを切ったり削ったりする「削器」、物に穴をあけるなどの用途に使われた「石錐」、携帯用のナイフのような役割をする「石匙」など、さまざまな種類の石器が見つかっています。

ぜひ当館にご来館いただき、多様な石器の違いをご覧ください。



▲石錐